

令和4年度 硫黄島遺骨収集事業 資料集

作成:遺族の会前橋市連合支部

硫黄島の戦いについて

硫黄島の戦いは、1945年2月19日～1945年3月26日、第二次世界大戦末期に硫黄島において日本軍とアメリカ軍の間で行われた戦いである。

1945年2月19日に、アメリカ海兵隊の硫黄島強襲が艦載機と船艇の砲撃支援を受けて開始された。

上陸から約1か月後の3月17日、栗林忠道陸軍中将(戦士認定後陸軍大将)を最高指揮官とする日本軍硫黄島守備隊の激しい抵抗を受けながらも、アメリカ軍は硫黄島をほぼ制圧。3月21日に日本の大本営は、17日に硫黄島守備隊が玉砕したと発表する。しかし、その後も残存日本兵からの散発的な遊撃戦は続き、3月26日栗林大将以下300名余りが最後の総攻撃を敢行し、壊滅。これにより日米の組織的な戦闘は終結した。

アメリカ軍の当初の予定では、硫黄島を5日間で制圧する予定だったが、最終的に1か月以上要することとなり、アメリカ軍の作戦を大きく狂わせた。

日本軍には小規模な航空攻撃を除いて、増援や救援の具体的な計画・能力は当初よりなく、守備兵力20,933名(陸軍:13,586名、海軍:7,347名)のうち19,900名が戦死または戦闘中の行方不明となった。一方でアメリカ軍は、戦死6,821名、戦傷21,865名(上陸部隊111,308名、海軍・支援部隊含めた合計250,000名)となった。

南の孤島硫黄島は草木が生い茂る島。
かつての激戦地とは思えない静かな地。



硫黄島は、三島で構成されていて、南沖には南硫黄島、そして北沖にも北硫黄島。硫黄島から南硫黄島は六十キロ、北硫黄島は八十キロ沖合にある。ともに無人島。

島の南東側は広い砂浜が広がる。
砂浜の真ん中に東地区で戦死したバロン西大佐の碑が
ひっそりと立っている。



岩の間に砲撃の玉の跡が今でも鮮明に残る。
当時の火薬での凄まじさが容易に想像出来る。

火山の島硫黄島。
北側はゴツゴツとした火山岩が至る所にある。
異様な風景が続く。





硫黄島は、字の通り「硫黄の島」。
至る所で高温の硫黄泉が噴き出しています。
飲み水は雨水。地下水も有りますが、硫黄水で飲めません。
ただし、ここ銀明水は唯一かろうじて飲める泉。

島の南側は、緑多い南国の木々が茂る南国の風景。
奥に見えるのが監獄島。



激戦地、硫黄島。激戦の末に、血生臭い戦場に種を
撒いて匂いを抑えたとも言われています。

当時の人々が往来した主要道路。





いさぎよく、確固した道。

島の南側に堂々とそびえる擂鉢山。
米軍の砲撃で上の三分の一が吹き飛んだ程の
艦砲射撃に耐え、現標高百七十メートル。



南海岸の扇浜。戦車や重量車両等々が上陸できる浜。
ここから何万人の米兵と何百台の戦闘車両が上陸。

米軍の爆撃機B29の胴体の一部とプロペラ。
胴体はアルミニウム。





日本軍の遠方射撃砲。

島の北側にある大坂山砲台百五十ミリ砲。
砲身に弾痕の跡があり、当時あった大砲を覆い囲う
トーチカが木端微塵。
米軍側からの砲撃の凄まじさがひしひしと感じ取れる。





海軍 高射撃砲。
今でも天高く空を狙っている。

遙か彼方、海から迫る敵軍を狙っている。





米軍車両のシャーマン戦車。

播鉢山の中腹にある海軍水平砲台一番砲。





島の至る所に、各所属部隊の碑が建立されている。

一つ目の収集場所は壕。
壕の総延長は約十八キロとも言われている。
ここの壕の奥行き約三十メートル以上。
土砂をザルとふるいにかけて遺骨を探す。



2022/11/25 07:59

壕の中は七十度以上。
送風機で風を送り、壕の温度が下がったら下へ向かう。



2022/11/24 14:39

温度が下がったと言ってもサウナ状態。
バケツリレー方式で土砂を地上へと運ぶ。
土砂の温度も五十度以上。



壕の高さは平均百六十センチで、常に中腰での作業と
人がやっとすれ違える狭さ。
そして、十分もいられない熱さ。



2022/11/23 14:55

壕の奥は土砂が崩れ、人が一人入れる大きさ。
この奥にもまだ続いている。



2022/11/24 08:35

二つ目の収集場所は、占領後米軍が無造作に
造成した所の収集です。



大小様々な岩を積み重ねて、その隙間を埋めるために
海岸の砂を満遍なくかける。
その岩と岩の間に、日本兵のご遺骨がバラバラに
点在している。
遺骨やその他を関係無しに、ブルドーザーで造成した
様子がうかがえる。



2022/11/26 09:30

三つ目の収集場所は、戦闘初期、米軍上陸時の南海岸。



日本軍の弾薬も数百発出てきました。
まだ危険があるので、
弾薬処理専門の自衛官が処理をする。



2022/11/25 14:57

栗原中将の陸軍司令部への壕の入り口。



壕の中は風化と共に崩れている所も多い。

おわりに

昭和16年から始まった大東亜戦争 多くの尊い命が失われました。
軍人、軍属、関係者で230万人の多くの若者が戦地に赴き玉砕、病気、飢えで戦死。
そして、その中の180万人が独身で戦死。家族を持って戦死した人は45万人でした。
未だに、日本本土から離れた土地で帰還を待っているご遺骨は、百数十万。
遺骨が見知らぬ地で帰還を待っています。
英霊の御霊に、今の日本の礎になり戦ってくれた事に感謝の意を述べるとともに、
決してこの様な戦争は起こしてはならない事を胸に刻みました。
今でも帰還を待っているご遺骨を1柱でも本土に持って来る役目を遂行しなければなりません。
そして、今でも中近東やアフリカ大陸で様々な戦闘が勃発しています。
2022年2月24日には、ロシアによるウクライナ侵略戦争、決して起こしてはいけない戦争。
多くの罪もない尊い命が失われています。
次世代の責務として 英霊顕彰、世界平和を語って戦争の悲惨さ・戦争がない世界を
語るべきだと思います。

遺族の会前橋市連合支部 青年部 新井 義宗